

# 旭ヶ丘

学園だより

No.10

編集・発行

高知高等学校

高知高等学校PTA

平成30年12月20日発行

## 次代に求められる力

教頭 大崎 基喜

平成30年度も残すところ数月となりました。思い返しますと、昭和64年が平成元年となつてからの30年間で学校を取り巻く環境は大きく変化をいたしました。

10年周期で少し振り返ってみますと、平成になつて間もない頃はいわゆる「バブル期」、ポケベルが始め、子どもたちはスーパーファミコンに夢中になつていた時期でした。学校は「校内暴力」をはじめとする生活指導の対応に追われる中、教育も「詰め込み」から「ゆとり」への変化として、学校週5日制が漸進的に進められるようになります。

平成10年あたりから、携帯電話が子どもたちにまで普及しはじめました。ドコモからiモードが発表され、インターネットで文字通信ができるようになったのもこの頃です。小学校、中学校では支援を必要とする児童生徒が増加し始めます。そしてこの10年間、諸外国と比較した際の「学力危機」が明らかとなり、「ゆ

とり教育」の転換が求められるようになります。

平成20年からの10年間では、「経済の停滞」や「少子化」が叫ばれるようになり、いじめや自殺など多くの諸問題が取り上げられるようになりました。Dogeが発売され、子どもたちは自分の興味のある情報を簡単に手に入れることができるようになりました。平成初期のゲーム、平成中期の通信機能も含め他人とのつながりや出会いさえ、インターネット上で行われることが珍しくない有様です。その上、子どもの数が減ったことは、親が子どもに求める価値観にも影響を与えたように思います。

この30年間、子どもたちと接して来た中で率直に感じる事は、明らかに「たくましさ」がなくなつてきたという事です。これは前に述べたような、生徒の生育環境の変化が影響しているのではないかと推測します。昭和の時代と比べ、成長過程で関わる人間の絶対数(大人・友達)が少なくなつてきていることや、親子関係の変化、経済状況などが密接に関わっていると思わ

れます。今の子どもの特徴として、大きな悪いこともしないけれども、やりたいことも見いだせない(目標を持つのが苦手)。一人遊びが多いので他者との関係は希薄(コミュニケーションスキルの不足。総じて未来への希望を語らせると、「中流意識」を感じ取れます。私が求める逞しい子ども像とは、好奇心、粘り強さ、決断力、寛容性、向上心などを備えた子どもということになります。言い換えれば、卒業後の人生を自身で切り開くスキルを持ち合わせた人物とも言えます。

次の10年においても、これまで以上のスピードで新たな技術が生み出され、物事の価値観さえ変化していくことが予想されます。その時代を生き抜く子どもたちに、人間的な「たくましさ」をどのようにして纏わせることができるのか。実は高等学校において、すでに2018年度から移行期間に入っている、新学習指導要領が求めるものもここにあるのではないでしょう。子どもたちが生きる力を求め続けてきた学習指導要領、今回の改訂のキーワードの一つに「探求」があります。「探求」とは子どもたちが自ら問いを立て、さまざまな学問・科学や芸術の手法を駆使して試行錯誤の中、

他者と協働しながら解決していくこととされています。

話は部活動のことになります。部活動の中でのコーチングにも同様のことが求められています。私は30年あまり、ボール競技の指導に携わってきました。自身の指導を振り返って感じる事は、教え込むこと、指示してやらせることの弊害です。ボール競技で大切なことは、局面ごとの迅速かつ正確な判断の繰り返しです。次に起こり得ることを予測して、仲間と情報を共有しながら自分たちの戦略に落とし込んでいくには、子どもたちの主体性が不可欠です。日々の練習の目標は、単に身体を動かすことではなく、試合を想定した場面・局面で自己と向き合い、そこでの問題解決の為に自分の意志で最適な行動を起こす訓練をすることです。選手が思考を止め、メニューをこなすことに終始するような主体性を失った練習では、想定外の場面や緊迫した試合などを乗り越えていくことはできません。競技スポーツにおいても一人ひとりの「たくましさ」が求められているのです。

では「たくましさ」はどのようなすれば養うことができるのでしょうか。私は精神的な逞しさもやはり戦いの中からしか学ぶことができないと思います。それならば日常の中に戦いを持ち込みましょう。学校でも家庭でも多くの課題や約束事がありますが、やらなければならぬことを他者からの期待や要請に依るとするのではなく、自らの意志に置き換えて行動に移すのは如何でしょうか。戦いとは自分との戦いです。自分の気持ち

と向き合い、小さな戦いに勝つことを積み上げることです。

ご承知の通り、本学の建学の精神は「人に信頼される人物の育成」です。人に信頼される人間とは、まさに「探求」の考え方通り、自分で選択、自他の個性を大切にしながら直面する問題を自ら解決する姿勢を持った人間のことです。私たち学校教育に携わるものとして、学問も部活動も、その目的は卒業後の生徒の生き方の中にあると言えます。新しい元号がまもなく発表されますが、次世代を支えていく中高生には、是非「たくましさ」を纏っていただきたいと感じるところです。

## 三者協力会

12月1日(土)に、生徒・保護者の方々に参加して頂き、三者協力会を開催しました。

今年度は「平成最後の三者協力会!僕達、私達の防災活動」あたりまえ「が消えたらどうします?」というテーマで防災講演を行いました。第1部では実際に本校の生徒が参加した「大月町ボランティア」や「高校生津波サミット」で感じたこと、学んだことを三者で共有しました。第2部では「災害ボランティア活動って?」というテーマで、高知市社会福祉協議会の市川真千先生に講演を行って頂きました。今回の三者協力会を通して災害に対する学び、気付いたことが多くありまして、このことを助け合いに繋げていくことが大切だと思います。

## 学園祭

215 生徒会議長

松村 哲司

今年の学園祭も例年に劣らず、良いものになったと僕は感じています。日数は減りましたが、それにより、さらに引き締まった雰囲気になったように思えて、楽しみながらもメリハリのある一日になっていました。学園ライブでも、先生方のご協力とお気遣いにより、実行側も観客側にもいい時間だったと思います。唯一、アコーディオン奏者のゲストの方には本当に失礼な言動を生徒がしたと感じました。もしも、来年からも学園祭があるのであれば、生徒一人一人が持っている行事に対する意識を確かめてみたいです。二日に戻してほしい人も、無くていい人も両方いる中で、行事を進めていくのはすごく難しいことだと思っています。それでも、僕達生徒会も学園祭を成功させるために学校に貢献するために頑張っていきますので、これからもよろしく願っています。

315 生徒会会長

久保田 基

私は高校最後の学園祭は素直に言う、とても楽しかったです。学園祭が一日に減ったときは様々なクラスからクレームが

きて、無事に学園祭を迎えられるかとても心配でした。いざ、学園祭が近づいてくるとみんな、「一日でも楽しくやる」と考えだして学園祭当日を迎えようとしていました。そして学園祭当日、高知学園の生徒みんなが楽しく、時には必死に学園祭に取り組んでいました。私は空き時間にできるだけ色々なクラスの出し物を見て回りました。どのクラスも完成度が高く丁寧な接客でした。そんな中でも、一際素晴らしいと思ったクラスがあります。三年二組のラーメン屋です。とにかく多くのお客さんがいたにも関わらず、テンポよく仕事をこなし、品物を提供していたので、思わず感心しました。そして、販売終了の時間になって、最後の片づけもみんなしっかりしていました。一日の学園祭でしたが、二日分以上の楽しさがあり、まさに笑顔満祭にふさわしい学園祭になりました。



## 中学校運動会

9月16日(日)に中学校運動会が開催されました。1日遅れの開催でしたが、秋晴れに恵まれ、多くの方々の応援を頂き終了することができました。



## ボランティア活動

平成30年度7月豪雨の被害が大きかった橘浦地区・一切地区で本校生徒43名、教員10名が清掃活動などのボランティアを行いました。また、日本赤十字社高知県支部長表彰式において、「特別表彰」を受賞しました。



## 第15回 新聞感想コンクール

第15回新聞感想コンクールにおいて、本校が優秀学校賞を受賞しました。また、吉村優花さん(1年)・首藤大果さん(2年)・浜崎葵さん・安岡希真さん(3年)が優良賞を受賞しました。

## あすチャレースクール

## 「想い」を必ず「行動」に。

9月27日(木)に中学3年生の総合学習で体験型授業「あすチャレースクール」が行われました。講師は、計7回のパラリンピックで車いす陸上に出場された永尾嘉章さんです。クラス対抗車いすリレーでは、生徒たちは初めて乗る車いすに悪戦苦闘しながらも大変盛り上がりとともに、パラアスリートの実力に圧倒されました。また、パラリンピックスポーツは障害の有無にかかわらず楽しむことができるスポーツであるとの気づきも生まれました。さらに、講演では人間の強さや多様性、あきらめない心の大切さを説いていただき、生徒一人一人が自分に置き換えて感銘を受けた時間でした。この授業を通して、誰もが希望を持っていきいきと過ごせる社会の尊さと、それをつくるのは私たち自身であるとの自覚、想いを行動にすることの大切さを学びました。これらを今後の生活に繋げてくれることと思います。



## スケアードストレート

11月14日(水) 5・6時  
目を使い全校でスーパードライバーズの方々のご協力の下、交通安全教室・スケアードストレートを行いました。

スケアードストレートとは、恐怖を実感することで、それにつながる危険行為を未然に防ぐというものです。

スタントマンによる交通事故の再現場面や、自転車の危険な運転を参観することで、危険な運転について実感するとともに、自転車乗車時の交通ルール違反の危険性などを理解し、自他の生命を大切にしようとする活動です。

参観後生徒からの感想は「たった1回の信号無視や確認を怠ることで、命を奪い人生が狂ってしまうことをしっかりと心に留めておきたい。」また「自分の運転が危険な行為だとわかったので、今日から運転を改めようと思った。」などの感想がありました。

中高生とも、今日の講習を通して、日々の自転車運転を見直し、自分自身が被害者、加害者にならないようにしてほしいと思いました。

## 進路・特進部より

進路特進部長 小川 直人

## 専門職大学について

○専門職大学とは  
2019年4月より、実践的な職業教育に重点が置かれ、特定の職業分野において高度な実践力と豊かな想像力を持った人材育成を目的とする新たな高等教育機関として「専門職大学」が創設されます。日本の大学制度の中に、新たな種類ができるのは55年ぶりのことです。

## ○専門職大学の特色

卒業に必要な124単位のうち3分の1にあたる40単位以上は企業などと連携した現場などでの実習で行い、さらにその実習の半分は企業で行います。専任教員の4割以上は、企業などで実績を重ねた実務家が担うことが義務づけられます。社会人は、実務経験に応じて最大30単位を免除されます。卒業生は、「学士(専門職)」の学位が授与され、既存の大学と同様、大学院の入学資格が与えられます。

○高知リハビリテーション専門職大学  
文部科学省の大学設置審議会がほぼ1年をかけて審査し、10月5日に設置が認められたのは、「高知リハビリテーション専門職大学」の1校でしたが、11月15日、国際ファッション専門職大学とヤマザキ動物看護専門職短

期大学の設置を認める答申がされました。その結果、2019年度から専門職大学2校が開設となります。「高知リハビリテーション専門職大学」は、リハビリテーション学部リハビリテーション学科を設置し、理学療法学専攻(定員70名)・作業療法学専攻(定員40名)・言語聴覚学専攻(定員40名)の3専攻となつていす。また2019年度入試では、指定校推薦、公募制推薦、社会人推薦、一般入試、AO方式、高知高校特別入試が実施されます。高知高校特別入試とは、高知リハビリテーション専門職大学への進学希望者のグループを編成し、特別メニューの教育を行うことで、進学をフォローする高知学園独自の連携教育を受けた者だけが出席できる入試のことです。

「大学入学共通テスト」の  
試行調査(プレテスト)

2018年11月10日・11日の2日間の日程で、全国約8万4千人の高校生が参加し、試行調査(プレテスト)を実施されました。本校からも2年生の一部と、3年生の一部が受検しました。

## ○英語

筆記「リーディング」は試験時間80分で大問数は6題、配点は100点でした。センター試験では出題されている「発音・アクセント問題」「文法問題」「整序作文問題」等が出題されず、「読むこと」の力を把握することだけを

目的としています。リスニングは試験時間30分、大問数は6題、配点は100点でした。「話す」「書く」は民間試験に任せるため、試行テストでは「読むこと」「聞く」ことに特化しています。

## ○数学Ⅰ・数学A

試験時間70分、大問数は5題(選択問題があるため受験生が解答する大問数は4題)で配点は100点でした。数式のみを記述させる問題や、短い文章で端的に記述させる問数式を記述する問題が出題されました。

## ○国語

試験時間100分、大問数は5題で配点は200点プラス記述式の評価で、第1問は記述式問題、第2問以降はマーク式問題でした。第1問の記述式問題では「論理的な文章」、第2問では「実用的な文章と論理的な文章」、第3問は「詩とエッセイ」が出題されました。第4問は「古文」、第5問は「漢文」の構成となつていす。記述式の問題は、30字以内、40字以内、80字以内、120字がそれぞれ1題出題されました。

長文や複数の資料を読み解き、文章や数式を記述させる問題や言語活動や探究学習など高校の授業や日常生活の場面を想定した設定の出題などがあり思考力・判断力を重視する傾向が見られました。また、マークシート式問題でも「すべて選べ」「適当なものがない」等の思考力を問う出題形式も見られました。

# クラスマッチ

## ―高校1年生の巻―

11月9日(金)にクラスマッチが行われました。高校1年生は学校の体育館での開催となります。生憎の天気であり、外でのサッカーやソフトボールなどの競技を行うことができませんでしたが、生徒は元気良く体を動かし球技を楽しんだり、オセロで頭をフルに使って楽しんでいました。また、体育委員の生徒は開会式や閉会式の司会進行だけでなく、競技の審判や準備を頑張ってくれました。このように、全員で協力したからこそ、楽しいクラスマッチになったと思います。来年も良いクラスマッチになることを期待しています。

## ―高校2年生の巻―

高2は高知市総合運動場体育館で実施しました。前日の雨の影響で男子ソフトボールはフットサルに変更となりましたが、秋晴れで気温もほどよいなか、体育委員を中心に皆の協力もあって円滑に進みました。捻挫等の怪我はありましたが、どの種目も大いに盛り上がった素晴らしいものとなりました。男女共同の二人三脚やおしりでパン！は照れながらもチームのために懸命で、花形のリレーも好レースで大盛り上がり。意外にもギャラリが多く盛り上がっ

## ―高校3年生の巻―

前日の雨の影響で、ソフトボールがバドミントンに変更された。体育館に続々と集まる生徒たち。それぞれのクラスのユニフォームに着替えて、心地よいざわめきを感じられるフロアに集合。開会式の短い諸注意の間も、「はいはい、解ってますよ。大丈夫、大丈夫！」と言わんばかりのムード。「ん」。たのしいね。」と思いながら見守る。

バレーボール、バドミントン、バスケットボール、フットサル、オセロ、神経衰弱のそれぞれの競技がそれぞれの会場で行われる。時間制が進むが、選手も審判もザワザワと集まり、誰かが得点係につき、ちゃんと試合が成り立ってゆく。

バドミントンのパシユットという音はバレーやバスケの歓声に消されて聞こえないが、なかなかの技を使う選手もいて、徐々に盛り上がりを見せた。ガットがボロボロでシャトルがはまってしまうハプニングには：ガムテープ作戦。(ガムテープを巻いたラケットはもはや羽子板ではないのか?)道具の不具合も工夫で乗り切る！さすが3年生！

サブ体育館からひとときわ大き

たのが3人対3人の神経衰弱、これには驚き感心しました。ちなみに優勝は1組。総合優勝は4組でした。来年も楽しみです。

会議室では静かな戦いが熱く繰り返されていった。こちらでは、体力自慢かにみえる生徒が頭脳戦で意外な(失礼!)善戦。人間は多様性があるからおもしろい。

最後は恒例の全体競技。二人三脚・三人四脚かけっこミックスリレーだ。選手たちは、嬉しそうに、ちよつと恥ずかしそうに……。しかし、やはり2年間または3年間同じクラスで過ごした信頼感がどのペア、トリオ、チームにも表れている。いい！すごい！

体育委員を中心にみんなが助け合って作り上げた一日でした。ほんの一部しか紹介できないのが残念ですが、3年間の成長を実感した一日でした。

記・3年学年主任 山中 優子



## クラブ成績優秀者

## 第15回高知県高等学校

## 軽音楽演奏会「軽音楽祭」

## (県大会) 最優秀賞

## 第42回全国高等学校総合文化祭

## 長野大会(全国大会)

## 優良賞(第3位)

## 第8回とよさと軽音楽甲子園

## 豊郷町長賞(第4位)

## Laze of Lazy

3-3 川村斗亜(Gt&amp;Vo.)

3-6 横田 陸(Ba.)

2-6 前田 誠耶(Dr.)



高知高校軽音楽部スリーピースロックバンド「Laze of Lazy」です。

今年度の結果です。公式の県

大会である第15回高知県高等学校軽音楽演奏会軽音楽祭(7月30日)において最優秀賞を受賞し、県代表バンドとして今年度の公式全国大会―第42回全国高等学校総合文化祭長野大会(8月11日)において優良賞(第3位)、第8回とよさと軽音楽甲子園(11月24日)では豊郷町長賞(第4位)を受賞しました。

本格的なバンド活動を始めてから1年半くらいという短い期間に数々のライブに出演、コンテスト出場、そして受賞と無我夢中で突っ走ってきました。県大会や全国大会ではバンドメンバーで協力して創ったオリジナル曲でエンタリーし、演奏技術はもちろんソングライティング力も、全国レベルで認められた結果と考えています。



これまで、メンバーの脱退、音楽性の相違等による衝突等様々な障害や困難にぶつかってきました。毎回大会直前になっても曲のアレンジが完成していない状態で、前日もスタジオでギリギリまで練習していました。けっして順風満帆で来たわけではなく辛いことや苦しいこともたくさんありましたが、最後まで諦めず頑張って音楽を続けてきてよかったと思います。このような結果が残せたのも、周りで支えてくださった方々のおかげと心から感謝しています。これからも高知中学高等学校軽音楽部が発展していくよう、後輩に自分たちの出来ることを伝えていこうと思います。応援ありがとうございます。

## ジュニアオリンピック

## 2年連続入賞

中学2年 山中 柚花  
昨年のジュニアオリンピックで走幅跳3位だったので、今年こそは「日本一」の目標で出場しました。

結果は、5位で目標を達成することができませんでした。2年連続入賞できたことは、嬉しかったです。

私が、ここまで来れたのは、指導してくれた先生、応援してくれた陸上部の先輩や後輩、家族、みんなのおかげだと思います。これからも、「日本一」を目指して、感謝の気持ちを忘れず、人としても素敵な選手になりたい

と思います。



## 日本一のプライド

森木 大智

私は、中学野球部で「日本一になる」という最大の目標を最高の仲間とともに達成することができました。春は「日本一の下剋上」、夏は「日本一のプライド」とテーマを決めて全国制覇を目指しました。チーム力を高めるために、あらゆる場面を想定した練習を繰り返しました。できるまでやりきったからこそ、一人ひとりが役割を果たし、日本一のチーム力が出せたと思います。全中の仙台育英学園秀光中等教育学校との決勝戦。中学野球ではありえないほどの試合時間。延長十一回、二時間越えの激闘でした。延長九回まで0対0の両者一歩も譲らず、ピンチとチャンスとの連続でした。2対1で決着がついた瞬間、勝手に涙が出ました。最後の整列で両

チームが肩をたたき合って健闘を称えました。入学してからこれまで本当に頑張ってきました。良かったと心の底から思いました。このチームだからこその全中優勝でした。誇り高き仲間感謝です。試合が終わった後、記念撮影をしている時に、秀光中の選手と約束したことがありました。「次は甲子園の決勝で。」私はこのことが実現できるように絶対に「やってやろう」と思っています。今僕たちは、次のステージである「高校野球」に向けて毎日練習しています。ゼロからのスタートなので、努力を惜しまず切磋琢磨して、さらなる高みを目指して頑張っています。今に満足することなく、これから一日一日を大切に練習していきたいです。「日本一のプライド」を忘れず、これからは「高校野球で日本一」を目指しやっていきます。これからも高知中学校野球部の応援を引き続きよろしくお願いします。



平成30年度 7月以降のクラブ成績

男子硬式テニス部

高知県新人テニス大会  
男子シングルス 優勝 西原大河(2年)  
準優勝 市川敦士(2年)  
男子ダブルス 優勝 市川敦士・乙部輝(2年)  
第3位 西原大河・秋山将太郎(2年)  
男子団体 準優勝  
夏季ジュニアトーナメント大会  
男子シングルス 優勝 西原大河(2年)  
第3位 乙部輝 (2年)  
男子ダブルス 優勝 西原大河・秋山将太郎  
第3位 市川敦士・乙部輝

弓 道 部

高知県高等学校冬季大会兼全国高等学校選抜大会県予選  
男子団体 優勝(2年連続)  
高知県高等学校秋季大会  
男子団体 優勝

バレーボール部

高知県高等学校夏季大会  
男子 優勝(3年連続)  
天皇杯・皇后杯四国予選  
男子 優勝  
全日本高等学校選手権大会県予選  
男子 優勝(春高バレー出場)

空 手 部

高知県高等学校冬季大会(四国大会予選)  
女子個人-59kg級 準優勝 大崎祐佳(1年)(四国大会出場)

野 球 部

四国秋季県予選大会 準優勝

サッカー部

全国高等学校サッカー選手権大会県予選 準優勝

柔 道 部

全国高等学校総合体育大会出場  
男子100kg級 北村昂之祐(3年)  
男子 90kg級 藤村大輝(2年)  
男子 81kg級 鎌田直人(1年)  
女子 63kg級 植村巴 (3年)  
四国高等学校新人大会  
男子 81kg級 優勝 鎌田直人(1年)  
女子48kg級 第3位 片田晶 (2年)  
女子57kg級第3位 山中穂乃香(2年)  
高知県高等学校新人大会  
男子団体 準優勝  
男子個人66kg級  
優勝 浅川紘誠(1年)  
準優勝 鎌倉廉(1年)  
男子個人81kg級  
優勝 鎌田直人(1年)  
男子個人90kg級  
準優勝 藤村大輝(2年)  
男子個人100kg級  
優勝 細川滉士郎(2年)  
女子個人48kg級  
準優勝 片田晶(2年)  
女子個人57kg級  
準優勝 山中穂乃香(2年)  
高知県高等学校選手権(夏季)大会  
男子個人66kg級  
優勝 浅川紘誠(1年)  
準優勝 鎌倉廉(1年)  
男子個人81kg級  
優勝 鎌田直人(1年)  
男子個人90kg級  
準優勝 藤村大輝(2年)  
男子個人100kg級  
準優勝 細川滉士郎(2年)

陸 上 部

四国高等学校新人大会  
栄校隼人(2年)男子やり投 優勝  
日浦理子(2年)女子三段跳 準優勝  
春野オープン記念大会  
吉川翔太(2年)男子1500m 第3位

女子4×100mリレー  
優勝(西森・坂上・日浦・寺田)  
日浦理子(2年)女子走幅跳 準優勝  
高知県高校新人大会  
奥宮健太(2年)男子円盤投 第3位  
男子砲丸投 準優勝  
日浦理子(2年) 女子三段跳 準優勝  
女子走幅跳 準優勝  
栄校隼人(2年)男子砲丸投 優勝  
男子やり投 優勝  
岡村豊寿(2年)男子やり投 第3位  
寺田天音(1年)女子100m 準優勝  
女子4×100mリレー 準優勝  
男子学校対抗フィールドの部準優勝  
国民体育大会高知県予選  
藤川時櫻(2年)  
少年男子Aハンマー投 第3位  
寺田天音(1年)  
少年女子B100m 準優勝  
日浦理子(2年)  
少年女子三段跳 準優勝  
栄校隼人(2年)男子やり投 優勝  
坂上春坂(1年)女子走幅跳 第3位  
西野歩季(1年)女子やり投 優勝  
(第73回国民体育大会出場)

少林寺拳法部

高知県高等学校秋季大会兼全国高等学校選抜大会県予選  
男子自由单独演武  
優勝 西岡勇飛(1年)

吹奏楽部

第46回マーチングバンド全国大会四国予選 第1位(全国大会出場)

水 泳 部

高知県選手権大会  
濱田雄一朗 100m自由形 優勝  
(1年) 200m自由形 準優勝  
西山湧也 100m自由形 第3位  
(3年) 200m自由形 優勝  
400m自由形 優勝  
土居侑也 50m背泳ぎ 準優勝  
(2年) 100m背泳ぎ 第3位  
50mバタフライ 優勝  
本田翔規 200m背泳ぎ 優勝  
(3年) 200m個人メドレー優勝  
400m個人メドレー優勝  
安原聖力 100m平泳ぎ 準優勝  
(1年) 200m平泳ぎ 準優勝  
200m個人メドレー準優勝  
400m個人メドレー準優勝

四国高校選手権大会  
安原聖力 100m平泳ぎ 第3位  
(1年) 200m平泳ぎ 準優勝  
本田翔規 200m個人メドレー優勝  
(3年) 400m個人メドレー優勝  
西山・安原・濱田・本田  
男子400mメドレーリレー準優勝  
男子400mリレー 準優勝  
男子800mリレー 第3位

日本高等学校選手権  
本田翔規 200m個人メドレー 出場  
(3年) 400m個人メドレー 出場  
安原聖力 100m平泳ぎ 出場  
(1年) 200m平泳ぎ 出場  
男子400mフリーリレー 出場  
男子800mフリーリレー 出場  
(高知県新記録)  
男子400mメドレーリレー 出場

剣 道 部

高知県高等学校秋季大会  
男子団体 優勝 女子団体 優勝  
男子個人 優勝 東野一成(2年)  
女子個人 優勝 下島美寧(2年)  
準優勝 酒井里彩子(1年)  
第3位 木下咲帆(1年)

## 全国大会出場

### 男子バレーボール部

【全日本バレーボール高等学校選手権大会 男子団体】  
【全日本バレーボール選手権大会(天皇杯) 男子団体】

### 女子バレーボール部

【全国私学バレーボール大会 女子団体】

### 少林寺拳法部

【全国高等学校 少林寺拳法選抜大会 男子個人】

### 剣道部

【全国高等学校剣道選抜大会 男子団体】  
【全国高等学校剣道選抜大会 女子団体】

### 弓道部

【全国高等学校弓道選抜大会 男子団体】

### 吹奏学部

【マーチングバンド全国大会】

